

5. 飛鳥川

飛鳥川については、現在流下能力が不足しているため、当面、10年に一度発生する規模の降雨（概ね50[mm/h]）による洪水を対象として改修を進めます。そのピーク流量は、基準地点「石川合流点」において110[m<sup>3</sup>/s]とします。

河川整備計画では、葡萄葛橋～松本橋を対象区間とし、改修にあたっては、地域の特性を踏まえた環境に配慮した整備を行います。

整備目標流量一覧表 (単位: m<sup>3</sup>/s)

河川名	基準点名	整備目標流量
飛鳥川	石川合流点	110

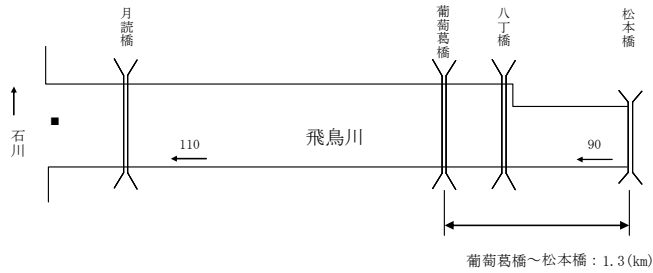
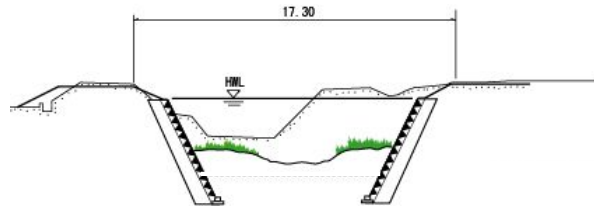


図 計画洪水流量配分図 (1/10 規模)

表 計画対象区間と整備内容

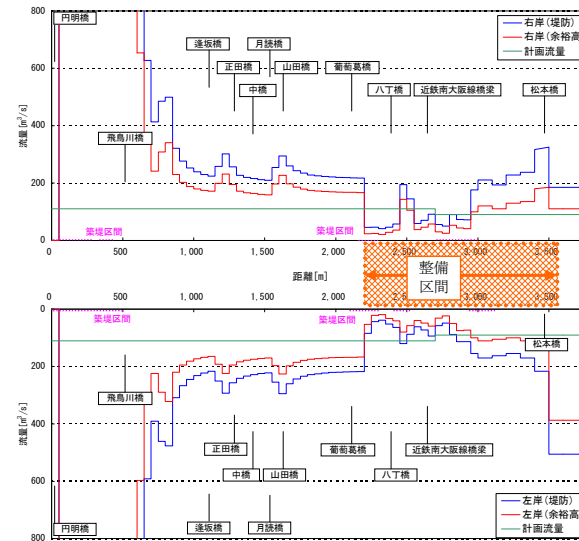
区間	整備における配慮事項	備考
葡萄葛橋～松本橋	<p>河川に沿って竹内街道が通るなど、多くの歴史、文化資源が集中する地域で、河川は農地や樹林と一体となって里地の自然環境を形成しています。</p> <p>このようなことから、里地の田園風景の中で、歴史・文化の香りや、自然を感じる交流の場としての川づくりを目指し、以下の点に配慮して整備を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>河川が有している自然の復元力を活用しながら、自然環境の保全に努めるため、多様な河道形状が形成されるよう川幅を確保を行います。</li> <li>関連計画や地域住民の要望を踏まえながら、歴史的町並み、史跡をつなぐ散策路としての場の提供に努めます。また、歴史性を演出した空間整備を目指し、河川沿い道路については4mを確保します。</li> </ul>	



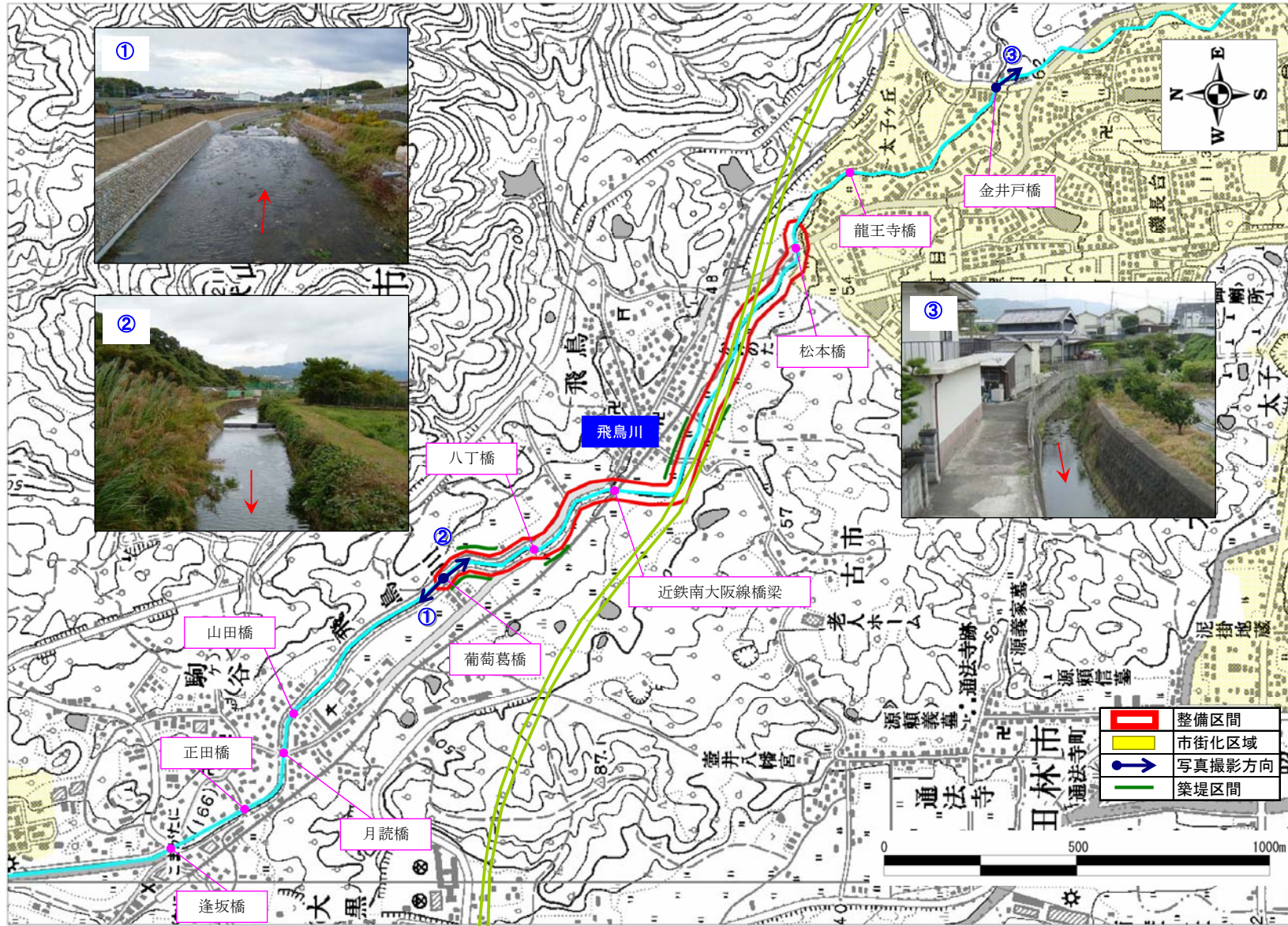
飛鳥川 計画横断面図

飛鳥川諸元表

項目	飛鳥川			
流域面積 [km <sup>2</sup> ]	密集市街地	1.26	1.19	
	一般市街地	1.07	0.45	
	畑・原野	3.47	1.79	
	水田	0.63	0.27	
	山地・公園緑地	4.12	3.15	
	河川・溜池	0.15	0.09	
	合計	10.69	6.95	
流路延長 [km]	6.9		4.1	
標高差 [m]	14.3		107.9	
洪水到達時間 [h]	1.01		0.62	
算定法	クラークヘン法			
計画対象雨量	到達時間内降雨強度 [mm/hr]	51.0		63.5
	60分雨量 [mm]	51.5		
	降雨強度式適用地区	南河内地区		
	確率規模	1/10		
算定方法	グンベル			
流出率	密集市街地	0.9		
	一般市街地	0.8		
	畑・原野	0.6		
	水田	0.7		
	山地・公園緑地	0.7		
	河川・溜池	1.0		
整備目標流量	基準点	石川合流点	No. 135地点	
	ピーク流量 [m <sup>3</sup> /s]	110	90	
	比流量 [m <sup>3</sup> /s]	10	13	
	流出計算方法	合理式		



飛鳥川 流下能力図



南阪奈道路

図一 飛鳥川平面図

## 6. 千早川

千早川については、現在流下能力が一部不足しているため、早期に治水効果を発揮できるように、当面、10年に一度発生する規模の降雨（概ね50[mm/h]）による洪水を対象として、局所的な改良等の検討を行います。そのピーク流量は、基準地点「石川合流点」において280[m<sup>3</sup>/s]とします。河川整備計画では、関係者等と協議し、対策の区間や内容等について検討します。

整備目標流量一覧表（単位：m<sup>3</sup>/s）

河川名	基準点名	整備目標流量
千早川	石川合流点	280

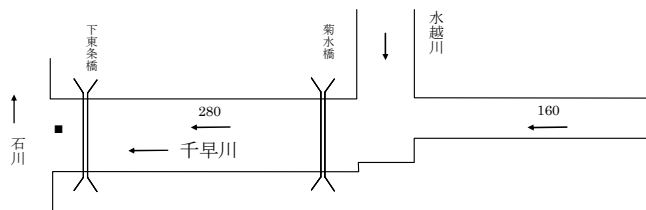


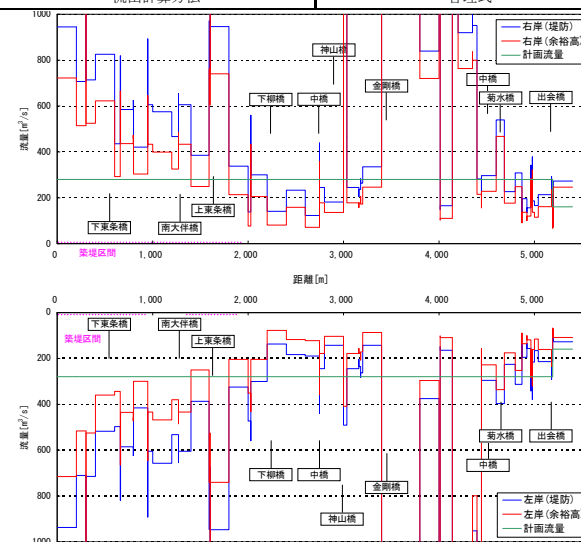
図 計画高水流量配分図(1/10規模)



図 整備対象区間の流下能力不足状況

千早川諸元表

項目	千早川		
	項目	0.00	0.00
流域面積 [km <sup>2</sup> ]	密集市街地	0.00	0.00
	一般市街地	1.85	1.52
	畑・原野	3.59	3.28
	水田	2.47	1.89
	山地・公園緑地	27.26	27.18
	河川・溜池	0.21	0.06
	合計	35.39	33.93
流路延長 [km]		3.43	1.70
標高差 [m]		37.8	31.2
洪水到達時間 [h]		1.64	1.37
算定法	クラーヘン法		
計画対象雨量	到達時間内降雨強度 [mm/hr]	37.2	41.9
	60分雨量 [mm]	51.5	
	降雨強度式適用地区	南河内地区	
	確率規模	1/10	
流出率	算定方法	グンベル	
	密集市街地	0.9	
	一般市街地	0.8	
	畑・原野	0.6	
	水田	0.7	
	山地・公園緑地	0.7	
整備目標流量	基準点	石川合流点	金剛橋
	ピーク流量 [m <sup>3</sup> /s]	280	280
	比流量 [m <sup>3</sup> /s]	7.91	8.25
	流出計算方法	合理式	



千早川 流下能力図

## 第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

### 1. 維持管理に関する事項

#### 1.1 維持管理に関する基本的な考え方

石川ブロック内の法河川の維持管理に関しては、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全から、河川の有する多面的機能を十分に発揮させるよう、維持管理計画(案)に基づき、適切に行うものとします。

なお、実施に際しては、ライフサイクルコストの縮減を念頭に、効率的・効果的な維持管理・更新、既存施設の有効利用と長寿命化のための効率的な対策を実施します。

#### 1.2 河川管理施設

##### (1) 堤防・護岸

施設が、常に十分な機能を発揮できるよう、日常の調査、巡視・点検を行い、損傷の程度や河川の状態、周辺の状況等に応じて順次、補修します。さらに、災害時の復旧活動や巡視活動を円滑に行うため、管理用通路を確保します。

また、水衝部および堰周辺の浸食による災害が懸念される箇所においては、河道特性を踏まえ、河岸浸食対策に努めます。洪水の発生により堤防等の河川管理施設が被災した際には、二次災害を防止するため応急的な対策を図り、出水後速やかに機能復旧に努めます。



図一 千早川の災害時の復旧

##### (2) 滝畑ダム

滝畑ダムについては、治水効果のある農地防災容量を有していることから、治水容量について農林部局と兼用工作物化の協議を進めていきます。また、今後の維持管理の役割等については、農林部局と引き続き協議を行います。

##### (3) その他の河川管理施設

落差工等の河川管理施設については、治水機能が適切に発揮できるよう、点検を実施するとともに、日々の河川管理や出水時等において、河川管理施設の操作を実施し、出水時等による災害に対して安全を確保します。

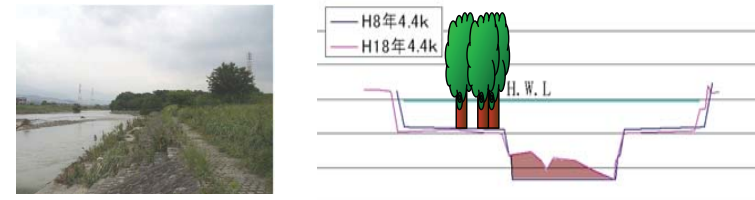
### 1.3 許可工作物

取水堰や橋梁等、河川管理者以外が管理を行う許可工作物についても、河川管理施設に準じた点検・対策及び操作を行うなど、洪水時の流水に対して支障とならないよう適正な維持管理を施設管理者に対して指導します。

### 1.4 河川区域等の管理

#### (1) 河道内樹木・堆積土砂

治水安全度が維持できるよう、河川形態、生態系及び周辺の自然環境に配慮しながら、適宜、維持浚渫、樹木管理を行うとともに、水衝部および堰周辺の浸食による災害が懸念される箇所においては、河道特性を踏まえ、河岸浸食対策を実施します。



図一 河道内樹木

#### (2) 空間利用管理

河川空間への不法行為等の監視・是正を図るため、河川巡視を行うとともに、地域との連携等により、多面的な管理体制の確立に努めます。

また、安全で快適な河川空間の確保のため、階段や河岸等の河川利用が行われる施設の点検および補修を行います。

さらに、近年の川に対する関心の高まりとともに、住民活動も活発に行われてきており、今後も、河川の美化に向けて、河川管理者、自治体、関係住民、NPO 等と協働で清掃活動等を実施します。



図一 空間利用(写真 左:大和川・石川クリーン大作戦、右:アドプト・リバー・栄町の活動状況)

### 1.5 その他

#### (1) 情報管理

維持管理の基本となる河道形状および流水の状況把握など情報を蓄積し、維持管理の効率化・高度化を図ります。

### 第3節 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項

#### 1. 河川情報の提供に関する事項

石川流域では、昭和 30 年代後半から平成元年にかけて宅地開発等により急激に人口が増加し、市街化が進みました。このため洪水が発生し、破堤、氾濫した場合には甚大な被害が発生することが想定されます。

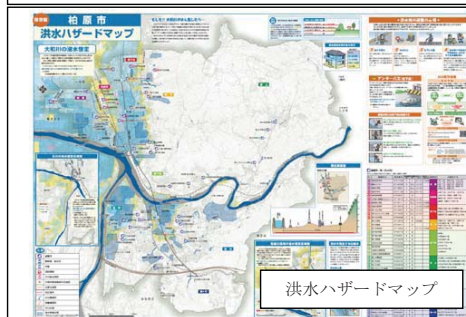
大阪府では、平成 19 年 3 月に「おおさか防災ネット」を立ち上げ、地域住民に対して気象警報、地震や風水害等、幅広い防災関係の情報を提供するため、市町村毎の防災情報や、気象情報が携帯端末に配信される「防災情報メール」などのサービスを行っています。また、石川本川では浸水想定区域図を公表しており、この図をもとに関係市町村が、避難経路や避難地等を示した洪水ハザードマップの作成等を行っています。このように、わかりやすい情報を提供することで、住民の安全な避難行動や地域防災活動を支援し、被害の軽減に努めます。

また、府民の方々へ各々のニーズに対応した河川に関する情報を提供するため、河川環境情報図をホームページなどを通じて公開するとともに、府民の方々からの情報提供を頂き、それを反映させて河川環境情報図の内容の充実を行うことで、情報の共有を進めていきます。その際には、府民の誰もが理解しやすいように、寄せられた意見を基に改良・工夫を加えるように努めるとともに、過去に起きた水難事故やその状況等についても盛り込んでいくことで、注意を喚起し、その再発防止に努めます。

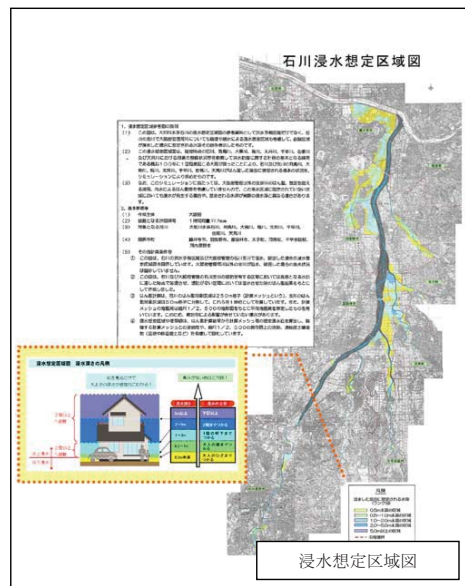
また、こうした取組みについては、各河川で多彩に行われている各種イベント等の場を活用して、日頃から河川に関する広報活動や情報提供を行うことにより、地域住民の河川への意識の高揚を図ります。



おおさか防災ネット HP



洪水ハザードマップ



浸水想定区域図

#### 2. 地域や関連機関との連携等に関する事項

河川整備を総合的に行うために、国、市町村などの、関係機関や流域住民と連携を図ります。治水に関しては、現在、流域市町村において、雨水処理施設、雨水調整池の設置指導、水源環境・保水機能維持のための森林保全など、水循環に関わる様々な取り組みが行われています。今後とも健全な水循環を図るため、流域を基本単位とし、河川管理者、自治体、関係住民、NPO 等との協働による流域管理への展開に努めます。

また、水防や救助の災害応急技術の習熟を図るだけでなく、地域の防災意識の向上のきっかけとなるよう、国や流域市町村と連携した防災訓練などの実施に努めます。

水利用に関しては、古くから河川、水路および井堰・ため池を活用した水利用が行われてきた歴史や文化を踏まえ、上下流の連続性の観点から井堰の運用や構造、水利用について農業関係機関と協議し、水環境の一層の向上に向けた連携に努めます。

河川空間に関しては、石川の河川公園やキャンプ場、バーベキュー場、千早川上流のマス釣り場等、川に親しむレクリエーションとして利用され、良好な水辺空間を創出しています。今後もより良い水辺空間を維持し、良好な姿で継承していくため、流域住民の理解を基に、河川愛護思想の普及を図り、NPO や市民団体等との協働に努めます。

また、石川に沿って整備されている南河内サイクリンラインは、河川公園と南河内地域の史跡や文化施設、スポーツ施設等を結ぶ自転車・歩行者専用道として、地域ネットワークを結ぶ役割を果たしており、今後も大和川下流へのさらなる展開を目指し沿川市や関係機関との連携につとめます。

維持管理に関して、地域住民と情報を共有し、連携・協働していくため、「水辺のつどい」を開催し、川への親しみや美化意識等の向上、コミュニケーションを図るなど、地域住民が主体となり南河内の歴史的・文化的資産を融合した、よりよい川の環境づくりに努めます。

さらに、「大和川・石川クリーン作戦」など、地域と協力して美化活動に取り組んでいきます。



図一 関連事項

(左：サイクリンライン、中：防災訓練写真、右：水辺のつどい)